

# 大型の水鳥による地域振興 流域全体での取組



自：自然共生  
資：資源循環  
低：低炭素

**キーワード** 地方創生、官民連携、水辺の保全・再生、環境配慮型農業、食、ブランド化、観光

**フィールド** 中国地方 (鳥取県・島根県) ・ **里川**

**実施体制** 斐伊川流域の5市2県（鳥取県米子市、境港市、島根県松江市、出雲市、安来市、鳥取県、島根県）、農業協同組合、漁業協同組合、観光団体、経済団体、環境NPO、学識者、地方銀行、地方新聞、国土交通省、環境省、農林水産省



## アクションの目的

斐伊川流域は、国内有数の冬鳥の越冬地であり、ラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海など、国際的にも著名な水辺環境に恵まれた流域により構成されている。このため、良好な生態系の指標として、また多くの人々へのアピール性が高い大型水鳥類に着目し、河川を基軸として多様な主体の連携と協働に基づき、流域全体の生態系ネットワークの形成を図り、地域活性化と経済振興を達成することを目的として様々な取組を実践している。

## アクションの背景

- 2005年、宍道湖・中海がラムサール条約登録湿地となる
- 2011年、トキ分散飼育事業を開始、『出雲市トキによるまちづくり構想』を策定
- 2013年、斐伊川放水路が完成し、基軸となる河川が概成
- 2015年、流域全体で大型水鳥を活かした地域活性化、経済振興に取り組むための「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」を設立（事務局：国土交通省出雲河川事務所）

## アクションの内容

- 【生物多様性の向上に資する農業によるお米】**  
大型水鳥5種（ガン類、ハクチョウ類、ツル類、コウノトリ及びトキ）を指標種（シンボル）として、有機農法、水田の冬期湛水、海藻農法等の環境配慮型農業を実施。
- 【ブランド化】**  
全日空の国際線ファーストクラスの機内食に採用されたことがマスコミに紹介されるなど、メディアを活用したPRを実施。
- 【地域への愛着・誇りの醸成】**  
各地域の小学生や父兄とともに、田植えや稲刈りのイベントを毎年実施し、地域への愛着・誇りを醸成。

## アクションのポイント

- ◎水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化の両立。
- ◎個々の生産者等の取組のほか、協議会として斐伊川流域の多様な主体が連携し「環境の世紀にふさわしい地域活性化と経済振興」をテーマに検討、取組を進めている。

## アクションの効果と今後の展開

- 冬期湛水水田に飛来したコハクチョウが県外から多数のカメラマン等呼び、観光に貢献している。
- 生物多様性の向上に資する農業によるお米づくりや、水田等をフィールドに地域住民等により開催される体験イベント等を通じて、生物多様性の大切さの認識が広まりつつあるとともに、地域への愛着や誇りの醸成にもつながっている。
- 地元の飲食店で海藻農法で栽培した農産物を採用する店が増えている。